

## インカレディベート報告

第13期 井上 雄哉

### ◆インカレディベートとは…？

2009年より始まったインカレディベートも今年で7回目を迎えました。今年度は、関西大学の岩本ゼミとディベートを2試合行いました。ディベートと採点方式は小野ゼミ方式を採用しておりますが、普段関わる機会の少ない他のゼミのメンバーと議論を行うことによって、立論や資料作成等、お互いに良い刺激を受けることができます。



練習通りの素晴らしい立論を行う福嶋君

### ◆活動後記

小野ゼミに入った3年生にとっての初めての大きな舞台となるのが、インカレディベート大会です。小野ゼミ生にとって、インカレディベートは負けれない戦いです。先輩たちの輝かしい勝利の歴史に、自分たちも名を残すべく努力を重ねてきました。

1 試合目は、「アパレル企業が新ブランドを展開する際に、ファミリーネームを使用すべきか否か」というテーマでディベートを行いました。このテーマは小野ゼミが事前に希望したものであったため、入念に準備ができた一方、勝利して当然だというプレッシャーも大きかったと思います。小野ゼミの出場者は、福嶋、長妻、平久、矢野、小黒でした。1試合目ということもあり、一同緊張をしているかと思いきや、リラックスした様子も見受けられました。最初のつかみで織田信長の例を用いるなど、聴衆を引きつけようとする福嶋君。ディベートでは絶対的な強さを発揮するエース：長妻君。いつも以上に強気で相手に反駁する平久さん。わかりやすい例えを用いながら、相手をねじ伏せる矢野君。最後のまとめで、前に出て聴衆に目一杯のアピールをする頼れるゼミ長：小黒君。各々が自分の持つ実力をいかんなく発揮した素晴らしい一戦でした。

2 試合目は、「家電市場において先発者と後発者のどちらが競争優位を獲得できるか」というテーマでディベートを行いました。このテーマについては、岩本ゼミ側が希望したテーマであり、かつ直前まで先



ドヤ顔をきめながらまとめを行う小黒君

発者・後発者の定義などが定まっていなかったため、最後まで苦勞を強いられたチームでもありました。小野ゼミの出場者は清水、山本、西森、井上、川村、木田でした。その膨れたお腹を震わせるくらいの大声で立論発表をする清水君。堂々とハキハキとした発表で、聴衆を引き込んでいく山本さん。フリーディスカッションで、あたかも講義を行うか如く相手を説得する西森君。穏やか

なトーンながら、論理的な反駁・フリーディスカッションで、相手に発言をさせない川村君。最後はわかりやすいまとめに定評がある木田君が締め、今までで最も相手を圧倒できた一戦でした。

そして、結果は無事小野ゼミが連勝し、1か月以上もの努力が報われた瞬間でした。特に1試合目のチームは集計者のミスで、最初は敗北宣言を言い渡された分、安堵感も大きかったでしょう。

そんな熱戦を繰り広げたインカレディベートの後は、小野ゼミ生御用達の「つるのや」で、懇親会が開かれました。普段交流する機会のない岩本ゼミ生と交流を深めました。

最後になりますが、涉外として至らない私のメールを毎回添削し、夜遅くまで相談に乗ってくださった小野先生。立論に関するアドバイスや、資料の見せ方を時として厳しく、時として優しくご指導していただいた大学院生、12期生の方々、本当にありがとうございました。感謝の意を綴ったところで、活動後記を締めくくらせていただきます。



講義のような物言いで相手を論破する西森君



懇親会で親交を深める両ゼミ生たち



2ゼミ合同写真